



第91号 (年4回発行) 編集発行 弘学院大学 前報委員 印刷所 (有)小野印刷所

二〇二二(令和四)年度 学位記授与式式辞

学長 薬科 勝之

今年の雪は、昨年の大雪をさらに上回る大雪でしたが、ようやく雪解けが進むこの季節、弘前学院大学から、新たに若い有為な人材をお送りできることを、嬉しく思います。

- 文学部 60名、そのうち英語英米文学科 22名
日本語日本文学科 38名
社会福祉学部・社会福祉学科 37名
看護学部・看護学科53名
以上、学部卒業生 150名
大学院については、今回はおりません。

しかし、新型コロナ禍は、これで丸3年が過ぎ、4年目に入ってしまったっております。ただ、最近はやや沈静化している気配が見えます。

本年度の就職率は、就職希望者に対する割合で見ると、途中の段階ですが、学部学生の全体はほぼ95%であり、昨年度に匹敵する極めて高い数字を維持しております。

しかし、人こそ、もともと貴重な資源なのです。ですから「人財」つまり「人」と、財産の「財」を結びつけた「人財」という新語ができていくわけなのです。



現在、「生涯学習」とか「人生100年時代」とか、こんな言葉があることはご存じでしょう。「人生100年時代」とか「超スマート社会(Society 5.0)」という

言うまでもなく、これらが大事な「学び」の時代なのです。この学びが、自分を育てるわけで、今こういう言葉が生まれております。

「学び」の時代なのです。この学びが、自分を育てるわけで、今こういう言葉が生まれております。それは、「自分育ての時代」という言葉です。

の精神とそれに基づく教育方針を思い起こしていただきたいと思えます。建学の精神では、「すべての人を大切にする精神をもって、すべての人と社会に対する責任を積極的に果たす」と謳っています。

柳澤尚代先生の最終講義に寄せて

看護学部 看護学科 教授 佐藤 厚子

2023年3月7日(火)に看護学部学部長柳澤尚代教授の最終講義が礼拝堂で行われた。

たことが車外の四季の風景と共に浮かんで来るのであった。

最終講義のタイトルは「4人の師匠と私の研究」であった。スライドには4人の師匠のお名前とそれぞれの師匠との研究の足跡が分かります。

「人」と人との関わりやコミュニケーションが潤滑油となり、活動にプラスの影響を与える。先生とこのような話をもっと語り合ってみたかったと少し残念に思った。

合格を束たしており、先生と川村先生の指導力の大きさが偲ばれる。ご臨席頂いた小寺正剛理事長からは「心温まる最終講義でした」とお言葉を頂いた。

弘前市出身である私が弘前学院大学に導かれ、しかも学長として2004年(平成16年)から17年間の長きに渡って務めさせて頂くことができました。

2021年(令和3年)2月18日(土)に発行された弘学時報82号には学長退任のご挨拶「歴史と由緒ある大学に導かれて」として私の歩んだ記録などが掲載されております。

見学ということになりました。この状況下で何度も延期されましたが、ようやく2023年(令和5年)1月20日(金)に皇居に参拝することができました。

柳澤先生の著書「こう書けば分かる!保健記録」(医学書院、2004)を通してだったという。当時川村先生は県職員として現場で働き、保健師の記録について議論をしていた時で、柳澤先生の先駆的な著書に学びを深めたことの一つであった。

講義の中で私が特に印象に残ったのは、山間地域における配食ボランティアの活動に影響を与える関連要因をテーマにした研究である。地方の山間地域は高齢化による孤立が進み、保健活動として配食ボランティアが行われ、食の自立、安否

「保健記録」発刊後、その中のおひとりの先生を含めた研究会を立ち上げ、現在でも親交があるとのことであった。研究業績の中の英文「Factors Affecting Satisfaction Levels of Japanese Volunteers in Meal Delivery Services for the Elderly (Public Health Nursing, 2008)」は学位論文でもう一人の師匠(指導教授)に鍛え

た。講義の最後は、人を残して死ぬ者は上だ」という後藤新平の言葉で締めくくられたが、4人の師匠に出会った先生は本学の教育に正に心血を注がれ、その成果は卒業生が立派に育っていることに現れている。

「保健記録」発刊後、その中のおひとりの先生を含めた研究会を立ち上げ、現在でも親交があるとのことであった。研究業績の中の英文「Factors Affecting Satisfaction Levels of Japanese Volunteers in Meal Delivery Services for the Elderly (Public Health Nursing, 2008)」は学位論文でもう一人の師匠(指導教授)に鍛え

さて文部科学省大臣官房人事課栄典班より正式な叙勲(瑞宝中綬章)の通知があり、2021年(令和3年)10月26日の閣議裁可を経て正式決定されたという通知が弘前学院大学総務課にありました。

2021年(令和3年)2月18日(土)に発行された弘学時報82号には学長退任のご挨拶「歴史と由緒ある大学に導かれて」として私の歩んだ記録などが掲載されております。

現在、私は弘前学院の産業医としてスタッフや学生の皆さまの健康管理などを担当しております。この機会を頂いたことに紙面をお借り弘前学院大学の皆さまに感謝申し上げます。



弘前学院大学前学長・名誉教授 吉岡 利忠 援として下さり心より感謝申しあげます。

2021年(令和3年)2月18日(土)に発行された弘学時報82号には学長退任のご挨拶「歴史と由緒ある大学に導かれて」として私の歩んだ記録などが掲載されております。



研究紹介 55

# 「思索するシェイクスピアを求めて」

文学部 英語・英米文学科 教授 川浪 亜弥子



「ここにあるのは、さまざまに変転するできごと、ときとして矛盾した不安定な思考の記録である。そこでは、ひよっとすると、わたしが別のわたしになる場合もあるし、多くの主題を、別の状況や観点からとらえることもあるはずだ。したがって、自分でも矛盾したことを言うかもしれないけれども、デマウス「アテナイの政治家・雄弁家」も述べているように、くっつけて真実に反するようなことは

は加齢とともに低下する傾向にある。人間である以上、これらの老化現象は避けられない。しかし、老化に運動不足が加わることで、これらの機能が低下がさらに加速していく。豊かで便利な現代社会においては、日常生活で身体を動かす機会が減り、このような状況下で長く生活していると、ますます運動機能は低下する。いつまでも元気で自立した生活を送るためには、生活環境に適應できる身体能力が必要である。貯金は「ゆとり」でもあるわけだが、筋肉もお金と同じでいざというときにために「貯筋」しておくことが必要だと考える。例えば、

この試みは、彼の生きた時代の、ヒューマニズムと呼ばれる人間の自由を追求する思想を背景とした、古代ギリシア・ローマの書物の丹念な読書によって支えられています。その圧倒的な読書量には驚かされますが、モンテニユは学術的な態度を徹底的に嫌い、作品を読めば読

むほど、自分が如何に無知であるかを知るに至るのです。モンテニユは書物を敬愛しますが、書物は知識を鼻にかけた権威主義者をつくりだす危険性も孕んでいるとして、書物と共に旅を人生の糧とします。旅先で目にする世界は、「われわれが自分を正しく知るためにしっかりと見つめなければならない鏡のようなものです」(「子供の教育について」と語っており、旅は眼前にいろいろな物事を展開してくれると同時に自分を映し出してくれるものだと言っています。)

私の研究対象はシェイクスピアを中心とするイギリスルネサンス期の文学・文化ですが、最近の研究ではモンテニユの『エッセー』を傍に置いてシェイクスピアを読んでいます。モンテニユとシェイクスピアはほぼ同時代人であり、『エッセー』



「to hold as 'twere the mirror up to nature」)とモンテニユを彷彿させるような言葉を語っています。今後はこの二人の作家に共通する思索的な態度を探求していくつもりです。

「あるある」と同感できる発言があり、まさに学び直しの役割を果たしたように感じ、業務で多忙な看護職の方々の期待に応えることができる内容にしなければならぬと肝に銘じた。参加者の方々から頂いた感想を励みとし、満足を得られるような内容にしていきたいと考えています。終了後の支援を継続して看護研究の更なる発展の一助となることを願ひ、これからもリカレント委員会の活動を発展させていきたいと願っています。

2022年度 リカレント教育  
—内容—  
学会で発表しよう！プレゼンテーションの方法—  
看護学部准教授 阿部智美  
看護研究におけるエクセルの活用の方  
看護学部准教授 田中真実

## 談話室

### 『備えあれば憂いなし』 貯金も大事だが貯筋も大切！

社会福祉学部 社会福祉学科 教授 葛西 久志

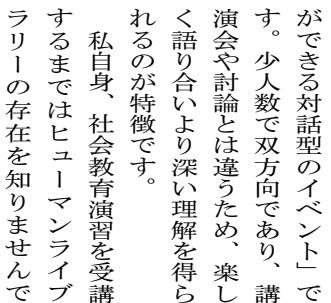


健康寿命は、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間と定義されており、厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の分析と健康増進対策の効果検証に関する研究」によると、青森県の健康寿命は、2016年(平成28年)

で男性71・64歳(全国第34位)、女性75・14歳(全国第20位)となっている。こうした状況下で自分自身が健康寿命延伸のために取り組んでいるものが正に「貯筋」である。年をとっても自立した生活を送りたいと願う気持ちには、誰もが持っていること。そのためには、筋肉を一定水準以上、維持していなければいけません。人の身体は年とともに変化していく。筋肉や神経、骨、血管などあらゆる組織の諸機能

は1603年に出版されたジョン・フロリオによる英訳によってイギリスへ紹介されました。『リア王』や『テンペスト』などの1603年以降の作品には、この英訳の影響を色濃く見てとれます。

ではそれ以前の作品ではどうなのだろうか。例えば1600年頃の作品とされる『ハムレット』は、殺された父の復讐を果たす劇に見えますが、生や死、愛や性について矛盾を抱えながら思索するハムレットの姿に心を奪われます。ハムレットは、演劇の目的は、「自然に鏡をかかげること」(to hold as 'twere the mirror up to nature)とモンテニユを彷彿させるような言葉を語っています。



2月7日、本学でヒューマンライブラリーというイベントを実施しました。私たち社会教育演習を受講している文学部の4年生5名が、坂本先生のご指導のもと、主催しました。そもそもヒューマンライブラリーとは、「語り手が自分自身の人生や価値観について話し、聞き手は語り手の人生を追体験し自分と違う価値観を知ることができる対話型のイベント」です。少人数で双方向であり、講演会や討論とは違うため、楽しく語り合いより深い理解を得られるのが特徴です。

私自身、社会教育演習を受講するまではヒューマンライブラリーの存在を知りませんでした。秋頃に一度講義の中でヒューマンライブラリーに聴き手側として参加した際、この催しの素晴らしさを実感しました。主催するにあたって参加しただけの方々にその素晴らしさを伝えていたいただきたく、企画や準備など力を入れ頑張りました。

ご指導いただいた坂本先生、共に頑張った社会教育演習の受講者、参加していただいた語り手や聴き手の皆さんにとても感謝しています。ありがとうございました。



## リカレント教育を終えて

看護学部 リカレント委員長 川村 泰子

リカレント教育とは、学校教育からいったん離れたあと学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていく社会人の学びをい、厚生労働省では、経済産業省・文部科学省等と連携して取り組んでいる。本学では2008年の開学以来、地域貢献のひとつとして、看護職に求められる能力の再学習の機会と

して提供してきた。本学のリカレント教育は「看護研究」を主たるテーマとして

いるのが特徴ともいえる。研究は仕事の場でも求められる、その方法を学び実践することとはどの時代においても喫緊の課題である。

コロナ禍ではあったが、2023年3月4日に17回目のリカレント教育を開催することができた。中断することなく継続できたのは、法人から「リカレント教育の継続と発展」のための補助金と学内教員の関する熱意と協力に依るところが大き

い。コロナ禍がこれほど長く続くと想像もできず、その中で開催方法を検討し2021年度から

準備期間と卒論のラストスパートや就職活動が重なっていたので多忙な中でしたが、より良いイベントにするために、たくさん意見を出し合ったり役割分担をしたり協力しながら頑張りました。その成果を発揮し、100点満点で終えることができ、とても嬉しく思います。

ご指導いただいた坂本先生、共に頑張った社会教育演習の受講者、参加していただいた語り手や聴き手の皆さんにとても感謝しています。ありがとうございました。

ヒューマンライブラリーが今後もっと知名度を上げ広まっていくことを願っています。

# 「教育と社会福祉が繋がれば、もつと子供たちの未来を支えられる」

社会福祉学部 社会福祉学科卒 佐藤 未夢



入学当初から目標は1つでした。しかし、その道は想像以上に大変なものでした。毎日、ほぼフルコマの授業をこなし、テスト期間は寝る時間も無く過ごしました。特に4年生は、6月から9月にかけて教員採用試験と教育実習、2月に社会福祉士国家試験があり、今振り返っても苦しい1年でした。9月までは教員採用試験に集中し、そこから

国家試験の勉強に移ったため、2冊の参考書と自作の暗記カードのみに教材をしぼり、短期集中で国家試験に臨みました。授業を休んだり、何もしていない日が増えたり、投げやりになった時もありました。何度も諦めようと思ひ、その度に友だちや先生方の励ましを受け、4年間ギリギリ学校に通いつけていたように思います。それでも、教員免許と社会福祉士資格を得た今、私の夢は現実になるうとしています。春から特別支援学校で勤務する中で、子どもたちが障がい

# 大学生活や国家試験を振り返って

社会福祉学部 社会福祉学科卒 太田 希



大学生活や国家試験を振り返ると、長いようであつという間でした。それは講義や実習などを通して、貴重な経験をすることができ、充実した日々を過ごしたということだと思ひます。入学前は、社会福祉士や精神保健福祉士という国家資格取得を目指すことや、支援相談員という仕事に就く未来は想像していませんでした。日々の学びを通して、

資格を取得し、ソーシャルワーカーとして働きたいと強く願うようになりました。受験勉強は決して簡単なものではないと実感しました。一人で机に向かっていると、この勉強方法で合っているのか、他の人よりも勉強が遅れているのではないかなどの不安が襲ってきました。そんな時、他の受験生や先生方が支えてくれました。他の受験生が勉強している姿を見ると、自分も頑張らなければという気持ちになりました。勉強の合間に話す、不安を感じているのは自分だけではないと気付

# プレッシャーを乗り越えるには

看護学部 看護学科卒 小林 玲



保健師と看護師国家試験に必ず合格しなければならぬというプレッシャーが、保健師として就職する私には大き

くあつた。特に、保健師国家試験は法律関係の問題や文章を読み込んで解答する問題が多く、実習で体験したことや保健師の対応を思い出し、問題に活かし

た。本番まで模試や過去問を繰り返し解くことは、勉強の成果を確認し、弱点を克服するための手段であつた。問題を繰り返し解くことで自分の勉強効率を見直し、本番にピークを持つていけるように調整した。模試の回数を重ねると難問が増えるため、参考書を読み込み、分からないところは保健師と看護師の問題は相互関係にあるため、毎日各々の問題に触れることで徐々に慣れていった。毎回、模試を

本番と違って臨み、本番直前まで友人と確実に知識を定着させたことは、プレッシャーを力に変えることに繋がつた。最後に、保健師だけではなく看護師の国家試験受験にも通ずることだが、身体面では栄養バランスや十分な睡眠など基本的な体調管理を怠らな

# 看護師国家試験を終えて

看護学部 看護学科卒 菊池 舞衣



2月12日に第112回看護師国家試験を受験しました。思い返すと、国家試験当日の緊張感は今でも忘れ

た。本番が近づくにつれて、大きくなる不安に心が押し潰される毎日でした。振り返ってみると国家試験の勉強を通して学んだ事が二つあります。一つ目は、頼る事です。国家試験を迎えるにあたり沢山の先生方がサポートをして

活をする事が大切だと思ひました。学んだ知識をインプットするだけでなく、復習を兼ねて友人と教え合い、アウトプットして理解を深めるように心がけました。また、休む時間を設けて、気分転換をする事でより集中して勉強に励む事が出来ました。

4年生になって本格的に国家試験対策勉強に取り組みました。就職活動や実習、卒業論文を同時にこなしながら勉強をする事はとても大変でしたが、出来ませんでした。友人、家族に感謝を伝えたいです。本当にありがとうございます。

二つ目は、習慣をつける事です。自分の勉強方法を確立させる事・メリハリのある生

活をする事が大切だと思ひました。学んだ知識をインプットするだけでなく、復習を兼ねて友人と教え合い、アウトプットして理解を深めるように心がけました。また、休む時間を設けて、気分転換をする事でより集中して勉強に励む事が出来ました。

# 日本語教育能力検定試験を受けて

文学部 日本語・日本文学科3年 佐藤 花南

日本語教育能力検定試験は、外国人に日本語を教えるために必要とされる基礎的な知識・能力を測るもので、「日本語教師」の登竜門です。試験の出題範囲は、言語学、音声学、教育法、心理、異文化理解など幅広く、近年の合格率は25%~30%です。その試験に合格した文学部の学生に話を伺いました。

日本語教師という職業に興味を持ったのは、大学に入学してからでした。日本語教育について学んでみたい、どんな仕事をしたいのか知りたいという好奇心で、日本語教師の資格取得に必要な講義を受け始めました。講義を受けていくうちに、それまでぼんやりとしていた日本語教育への興味関心が強くなつていき、進路の選択肢の1つが日本語教師になりました。

「大学または大学院で日本語教育に関する専攻プログラムが副専攻プログラムのいずれかを修了する」ことで日本語教師として働く資格は得られますが、その上で日本語教育能力検定試験を受けようと思つたのは、受験することで自分の今までの学びを客観視できると考えたからです。これまで受けてきた日本語教育に関する講義では多くの学びがありました。しかし、自分で学びが得られていると感じていても、実際にどの程度それらが身につけているのかわからないという不安があつたとき、合否に関わらず、こ

階からの準備を心がけ、心ゆとりをもって本番に臨んでほしいと思う。日本語教育能力検定試験を受けること自体が今の自分に何が足りないのかを知ることに繋がると思ひました。もちろん、受けるからには合格したいという気持ちもあつたため、勉強方法は工夫しました。本格的に試験勉強に取り掛かつたのは2022年5月です。試験は10月だったので、約半年費やしたことになりました。私は1年かけて少しずつ勉強するよりも、半年で一気に対策する方法が向いてい

二〇二二年度 理事長賞授与者

文学部 英語・英米文学科 山崎 未空  
 日本語・日本文学科 鶴ヶ谷 朱梨  
 社会福祉学部・社会福祉学科 西 亮馨  
 看護学部・看護学科 奥崎 彩聖

文学部 英語・英米文学科卒 山崎 未空



私の大学生活はとても短かったように思います。課題や実習就職活動で忙しく、辛かった記憶もありますが、友人たちと過ごした時間や大好きな英語を学んでいる楽しい記憶が多くあります。辛い思い出も楽しい時間も全て

この四年間で経験できて本当に良かったと思っています。私は、実習や就職活動中に心が折れそうになったことがありますが、特に就職活動は本当に辛いことばかりでした。私は公務員を目指していたので、二年生の後半くらいから少しずつ公務員試験の勉強に取り掛かり、四年生の七月あたりまで継続的に勉強を進めていました。約一年と八か月もの間、精神的にとて

も辛く、投げ出してしまいたいと何度思ったかわかりませんが、しかし、家族の支えがあったことや、来年も勉強漬けになるのは避けたいという思いから、勉強を習慣化して、試験の当日まで続けることができました。そのことは、確実に私の成長に繋がったと思っています。

また、私は英語・英米文学科に入学し、学べたことを嬉しく思っています。入学前に英語を学ぶ楽しさに目覚めたこともあり、英語の講義はどれも楽しく、知的好奇心を満たされました。入学後には英語以外の言語についても知識を得る場があったので、英語との比較対象もでき、更に英語学習に魅力を感じるようになりました。公務員試験で精神的に参っていた時には、合間に英語学習をして気分

文学部 日本語・日本文学科卒 鶴ヶ谷 朱梨



家族や先生方から多くの支えを受け、四年間の大学生活を無事に駆け抜けることができました。こうして卒業を迎えられたことを嬉しく思います。

入学当初の私は自分に自信が持てず、高校までとは大きく変わるであろう大学生活に大きな不安を抱いていました。大学生や社会人に求められる主体的な学びや行動が、果たして自分から出るのかと悲観的になってしまふことも多くありました。最初のうちは、授業内の発表やディスカッション、授業の感想

や質問を出席カードに書くことにも非常に緊張し、思うように行動できずに落ち込むこともありましたが、そうした授業での発表やレポートの提出を繰り返すうちに、次第に不安や緊張は解けていきました。先生方が小さな質問にも詳しく丁寧に答えてくださったりと、同じ授業を受ける学生が発表を真剣に聞いてくれたことが、自分の考えていることが受け止めてもらえているのだ、という自信が持てました。こうした場のおかげで私は、学んだことをもとに自分の考えを持つことに楽しみを持つようになりまし。より良いレポートを作るために先行研究や先生方の見解を多く集めて

参考とし、自分なりに納得のいくレポートの完成や先生からのフィードバックを通して自信がつく、という良い循環を持てるようになりまし。また、イベントの運営に関わった日本語学演習や、学芸員の業務を経験する博物館実習は、意見・情報発信やコミュニケーションの力を、実社会に求められる形として身につけることができ、貴重な経験となりました。

大学生活を通して、私は大きく成長することができたと感じています。社会人としての生活が始まることとなり、新たな不安もありますが、これまで培ってきたことを礎に、学び続けることをやめずに生きていきたいと思います。改めて、これまで支えてくださった家族、友人、教職員の皆様学内外で関わったすべての方々に感謝申し上げます。

看護学部・看護学科卒 奥崎 彩聖



大学生活を振り返り

大学生活を振り返ると、期待よりも不安の方が大きかった入学当初から、足早に四年間が過ぎたように思います。一年から三年の前期までは講義や試験が中心であり、その後は領域別実習に加え、就職試験、卒業論文、国家試験と、様々な課題が盛り沢山の毎日でした。看護職を目指すにあたって、何事にも最後まで諦めずに取り組みしたいとい

う思いがあり、悔いが残らぬように、一つひとつを乗り越えてきたように思います。その際、学修や進路の様々な疑問や悩みを、先生方にご相談させて頂きました。些細な事も含め、親身になってご教示頂き、学びの理解が深まると共に、進路に関する自信をもつて進んでいくことができました。また、数々の大変な時期を乗り越え、充実し

社会福祉学部 社会福祉学科卒 西 亮馨



転換する程までに英語に夢中でした。英語学習だけに留まらず、外国語を学ぶことの楽しさを知り得たのはこの学科に入っただからだと思っています。私は大学で学んだことを忘れないように、これからも英語の勉強を続け、日常生活の中で活かしていけるように努めたいと思っています。

最後に、四年間私の学びや心身の両面を支えてくれた皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私が大変な時期を乗り越え、充実した大学生活を送ることができたのは、先生方をはじめ、友人や家族の支えがあったからです。特に、就職活動の時期は、自分一人では乗り越えられなかったことが、先生方や友人の励みのおかげで乗り越えることができました。また、研究室に行き、自分の中で引かかかっている気持ちを相談した時も、親身になって

私が、この大学を選んだ理由は、特別支援学校の教員になるためでした。最初は、絶対に叶えたいという強い気持ちを持っていました。しかし、2、3年生になると「私なんか教員になれるはずがない」「教員になっても生徒に何もしてあげられない」と気持ちが沈み、泣いている時期がありました。その時に、「やっぱり自分のやりたいことだった」と気づかせてくれたのは、家族、先生方でした。苦しい気持ちをいつでも聞いて、背中を押してくれたのは家族でした。また、研究室に行き、自分の中で引かかかっている気持ちを相談した時も、親身になって

自分のことのようにアドバイスしてくれました。さらには、最高の環境で実習できたことも加わり、大きなパワーをもらい採用試験にも合格することが出来ました。私が、夢に向かって自分らしく頑張ることが出来たのは、最強の支えがあったからです。

日本ソーシャルワーク教育学校連盟の成績優秀者表彰される

この度、二〇二二(令和四)年度の成績優秀者が決まりました。

この賞は、社会福祉士・精神保健福祉士養成課程修了者で、学業成績・人物ともに優秀である学生に贈られるものです。

日本ソーシャルワーク教育学校連盟成績優秀表彰者は、佐藤未夢さん(社会福祉士養成課程)、太田希さん(精神保健福祉士養成課程)です。

